

茅ヶ崎市自立支援協議会報告書

標 題	令和6年度 第4回 地域生活支援拠点等整備事業進化 PROJECT（えぼプロ）会議		
日 時	令和6年12月11日（水）10時00分～12時00分		
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 E会議室		
出席者	<div>■ 茅ヶ崎市障害者団体連絡会 茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会</div> <div>■ 茅ヶ崎市障害者施設連絡会 社会福祉法人 翔の会</div> <div>■ 茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会 ヘルパーステーション結</div> <div>■ 茅ヶ崎市地域作業所連絡会 みらまーる</div> <div>■ 茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会 リーフホーム</div> <div>□ 相談支援事業所連絡会 相談支援センターつみき</div> <div>□ 相談支援事業所連絡会 地域生活支援センター元町の家</div> <div>□ 相談支援事業所連絡会 障害者生活支援センター</div> <div>■ 相談支援事業所連絡会 生活相談室 とれいん</div> <div>■ 相談支援事業所連絡会 ひざしの丘</div> <div>■ 茅ヶ崎市保健所 保健予防課</div> <div>■ （事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル</div> <div>□ （事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル</div> <div>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐</div> <div>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐</div> <div>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主事</div> <div>■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主査</div>	<div>上杉 桂子</div> <div>佐藤 伸</div> <div>小野田 潤</div> <div>羽根 由起江</div> <div>伊藤 久美</div> <div>棚橋 利恵</div> <div>竹内 智洋</div> <div>田中 有希子</div> <div>庄司 将太</div> <div>柴田 勝一</div> <div>深澤 雄司</div> <div>瀬川 直人</div> <div>鐘ヶ江 麻里子</div> <div>大八木 元</div> <div>荒井 優広</div> <div>鈴木 健太</div> <div>鈴木 敦之</div>	
司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 鈴木（健）主事 書記：障がい福祉課 鈴木（敦）主査			
<div>1 前回のグループワークについて（鈴木（敦）より）</div> <div>① 機能1 相談体制の整備</div> <div>② 機能2 緊急時の対応の整備</div> <div>③ 機能3 体験の機会・場の整備</div> <div>④ 機能4 専門的人材の確保・育成</div> <div>⑤ 機能5 地域の体制づくり</div> <div>⑥ その他</div> <div>上記内容について別紙パワーポイント資料を基に説明。</div> <div>2 グループワーク</div> <div>前回の意見をもとに優先順位を検討する。</div> <div>えぼプロKJまとめの内容を受け、各グループで優先順位を協議する。</div> <div>Aグループ（上杉委員より発表）</div> <div>○緊急時に受けてもらえない理由○</div> <div>① ケースを知らない</div> <div>② 障がいは汎化しづらい</div> <div>③ 関係性が希薄</div> <div>④ 本人の納得が重要</div> <div>・緊急の定義（ex：生命にかかわる）</div> <div>・緊急時の受入れ先・体験の場（ex：人手不足も含む、体験利用先の確保→経験は重要なポイント）</div> <div>・人材の確保・育成（ex：スペシャリストの養成と人材育成）</div> <div>・対象者の掘り起こし（ex：アウトリーチの方法、リスクアセスメント票の作成など）</div> <div>・相談（緊急時）先の明確化（ex：緊急時の相談支援体制の確立）</div>			

など優先順位をつけられなかった。同時並行で話し合っていく必要がある。

Bグループ(佐藤(伸)委員より発表)

○相談《周知》

①市内に相談支援事業所がいくつあるのか、どこにあるのかがよくわからない

②相談窓口を13地区に各1か所設置

→相談先・・・最寄りの相談先→委託や市へ

※相談者は委託も計画も関係ない

※たらい回しを防ぎたい

※周知の結果、増える相談者数を受けきれるか？

→地域包括支援センターの活用《支援者間の連携》

○緊急時の受入・対応

①安心生活支援事業による体験利用の推進

②緊急時の連絡窓口の明確化

・緊急とは？人とは異なる。定義づけが必要。

→緊急の定義は2層で考える必要がある。(医ケア・行動障害の場合、その他)

・知らない人の受入れ

→情報の共有(問題を隠すこともある)

・体験をした人・しない人は落ち着きが違う。体験していく事はとても重要。

・緊急を想定したプラン作り。

・平常時から緊急時を想定したプランニングを行う事で緊急時を緊急としない取組みとする。

・特性によって対処方法は異なるため、多様な対応について検討することも大切。

必要な対応とは？→事前の情報登録・共有

体験利用の推進

調整係→緊急時連絡窓口

選択肢を増やす

○体験の機会・場

① 単身生活も視野に入れ、今の家で住み続けることも選択肢に入れる。

本人が短期入所するのではなく、親が一時的に外泊し、本人が自宅で一人暮らし体験できる機会をつくる。

② 緊急時を想定して様々な体験をするアイデアを検討していく。

### 3 その他

上杉委員より:12月15日(日)14時から分庁舎6階コミュニティホール大集会室にて又村氏の講演会(強度行動障がい)について実施予定。

日本自閉所協会の全国大会を2月に実施予定。

配付資料

1 次第、名簿

2 パワーポイント資料(えぼプロKJまとめ)

3 グループワークまとめ資料(A3)

4 どう変わる？強度行動障害について

5 英国から学ぶこと・今わたしたちにできること～NASが実現した「生きやすい」社会～

次回:令和7年2月12日(水) 10:00～12:00 分庁舎5階 F会議室